

雪氷写真館④ 北海道空知・日高地方で発生した着氷現象



写真 1. ニオイヒバ並木の着氷害 (北海道日高町)



写真 2. 樹木の雨氷 (北海道美唄市)

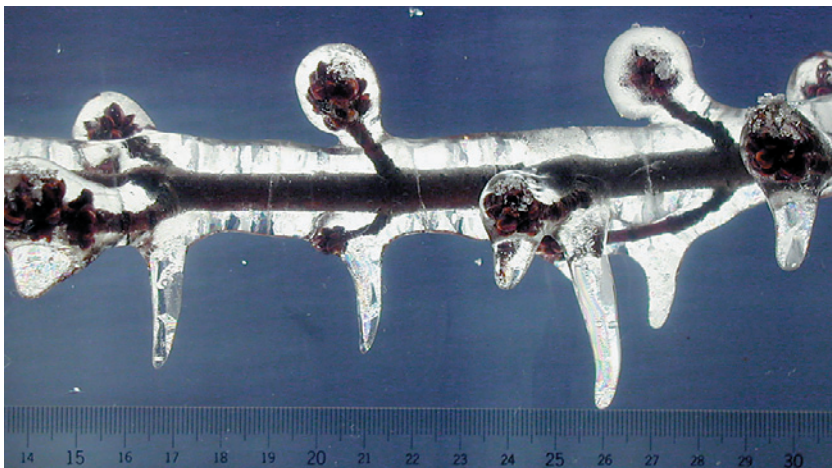


写真 3. 桜枝に成長した雨氷の偏光写真



写真4 着氷による鉄筋コンクリートポールの倒壊

北海道空知・日高地方で発生した着氷現象

2004年2月22～23日、北海道の南海上を急速に発達しながら東北東に抜けた低気圧によって、22日は雨や湿った雪が降り、23日は最大瞬間風速が根室、寿都で35.0 m/s、札幌で26.6 m/sと北海道各地で暴風が吹き荒れた。この暴風雪により北海道各地でフェリー、航空機の欠航、JRの運休、湿雪による停電やビニールハウスの倒壊などの雪害が発生した。空知・日高地方では着氷性の雨が降り、雨氷の形成と暴風により、樹木の幹折れや幹曲がりが発生した。写真1は日高町で発生したニオイヒバ並木の幹折れである。写真2は美唄市で24日に撮影された樹木への着氷である。岩見沢では2月22～23日の深夜から朝に着氷性の雨が降ったのち、暴風となった。写真3は23日昼に岩見沢で採取した桜の枝の偏光写真である。枝の直径が1 cmほど太くなっており、結晶が枝から外側に向かって成長している様子がうかがえる。写真4は北海道教育大学岩見沢校の野球場防球フェンスである。着氷により吊り下げネットの目が詰まり、直後の暴風により鉄筋コンクリートポールが倒壊した。

2月22日21時に札幌管区气象台で観測した気温の鉛直プロファイルでは高度およそ500 mから2000 mの間で気温がプラス、高度500 m以下では再び氷点下であり、この層構造が着氷性の雨を降らせたと考えられる。

尾関俊浩 正会員（北海道教育大学岩見沢校）